

平成 29 年度新規採用予定者内定式について

平成 28 年 10 月 3 日
公益財団法人鉄道総合技術研究所

公益財団法人鉄道総合技術研究所（以下、鉄道総研）は、平成 28 年 10 月 3 日（月）10 時から、国立研究所において、「平成 29 年度新規採用予定者内定式」を行いましたのでお知らせいたします。

内定式では、経営幹部立ち会いのもと、鉄道総研理事長 熊谷則道 から新規採用予定者 18 名ひとりひとりに内定通知書が手渡されました。引き続き、採用予定者は理事長から激励の言葉を受けました。

理事長 激励の言葉要旨

本日、この場においていただいた皆さんに内定通知をお渡しできたことを、大変うれしく思います。私とここに列席している役員の間としては、既にみなさんは鉄道総合技術研究所のメンバーであると思っています。ぜひ、いろいろなコミュニケーションをとって頂きたいと思います。



写真 内定通知書を受け取る内定者

今日は三つのことをお話します。

一番目は、先達の方法を学びつつ、自分なりの研究スタイルを作ることです。

いつの時代にも、技術革新は必要です。そしてそれらは研究開発から生まれます。パターンにはまらないように、自分らしさを作ってください。無茶をするのではなく、自分のスタイルを見つけ、自分が目標を持ったなら、自分を信じ、目標に向かって行動することが大事です。研究を進めるに際して、研究の先駆者、先輩の研究スタイルを学んできているはずですが、先達の研究方法を吸収し、そして、自分の研究スタイルを作ってください。オリジナリティはそうしたプロセスから生まれます。「温故知新」の言葉通り、新しい知を生むために先達の方法をよく見ることも必要です。

二番目は、研究開発が社会にどのように役に立つか常に意識することです。

最近の科学や工学の分野では、デジタル技術とその応用に強い関心が向けられています。皆さんは今、社会への扉の手前にいます。科学や工学での研究開発は、社会に役に立つ成果が求められます。デジタル技術もそうした社会へ貢献する成果を創ることに向かうべきです。社会では何かを与えられるものではなく、与えることで自分という存在を見出します。

鉄道総研の役目も社会への貢献であるということです。特に強調したいことは鉄道輸送の安全に関する研究開発の実施です。鉄道の事業に関わる方々は「安全は輸送業務の最大の使命である」という言葉を大事に

しています。私たち鉄道人は、より多くのお客様に鉄道を利用していただくために、安全を第一により鉄道をつくることにまい進しています。このような鉄道人の思いを感じていただきたいと思います。

三番目は、論文を完成させ、課程を修了させることです。

みなさんが今取り組んでいる、修士論文なり博士論文の進捗です。既に書き終えた余裕のある方がいる中で、実験データをそろえるためになお実験を継続されている心穏やかでない方もいらっしゃるのではないかと思います。これからの数カ月を是非集中して、全力で仕上げてくださいたいと思います。大学生活の集大成である学位論文を仕上げることは、研究者としての第一歩としての価値を持ちます。今年度末までの数ヵ月後に大きな満足を得られるよう集中して取り組んで下さい。

本日、内定を受けたこの機会に3つを話しました。今、ただちに鉄道の研究を意識する必要はありませんが、鉄道に乗った時、あるいは、マスコミなどの報道に接する時のみでよいので、安全の維持について、科学者として第三者の目で各自なりに意識して下さい。

鉄道総研は皆さんの若い力を必要としています。来年の4月から、共に鉄道を進化させるための研究開発活動に携われることを楽しみにしています。



写真 激励の言葉を贈る熊谷理事長